

ベラルーシでの放射線防護基準設定に 関する歴史的見知

オルガ・クシンスカヤ
ピッツバーグ大学
コミュニケーション学部
okuchins@pitt.edu

不可視化の駆け引き ~
チェルノブイリ事故後の
放射線による健康影響に
ついての公知の事実~
(MIT, 2014)

- チェルノブイリ放射線事故の影響についての知識を私たちはどう得ることができたのか？
- 私たちの知識が十分、つまり社会的に正しいと保障してくれるの社会的メカニズムは何か？



The Politics of Invisibility

Public Knowledge about Radiation Health Effects
after Chernobyl

不可視化の駆け引き
~ チェルノブイリ事故後の放射線による
健康影響についての公知の事実 ~

- 放射線とその影響は様々な方法によって一般に可視化され分かるようになったり、一般に不可視化され分からなくなってしまいます。
- 不可視化: チェルノブイリの放射線とその健康影響の一般可視化を妨げる具象的行為

可視化・不可視化の流れ

- 抑制、不可視化：1986-1989
- 可視化の増大：1989-1991
- 経済改革：1992-1996
- 通常化、復興：1997-2005
- ほぼ消滅：2005-

1991年 放射能汚染レベル・量に基づくベラルーシ区域分類

区域分類	年間平均放射線量	汚染濃度 (キュリー/km ²)		
		Cesium-137	Strontium-90	Pu-238, -239, -240
避難(隔離)区域	チェルノブイリ原発近辺：1986年に住民避難			
初期移住区域		>40 (>1,480)	>3	>0.1
次期移住区域	年間5ミリシーベルト*以上可	15-40 (555-1,480)	2-3	0.05-0.1
移住可能区域	年間1ミリシーベルト*以上可	5-15 (185-555)	0.5-2	0.02-0.05
定期的な放射線検査のある居住区域	年間1ミリシーベルト*以下	1-5 (34-185)	0.15-0.5	0.01-0.02

注：*環境放射線と合わせた量

参考：チェルノブイリ原発事故により放射能に汚染された地域の法的規制法(1991年)

THANK YOU!

ありがとうございました。